

第1回多治見市役所新庁舎検討市民委員会 会議録

日 時	令和3年2月2日（火）午前9時00分～午前11時30分
会 場	多治見市役所本庁舎 2階大会議室
出席委員	小林甲一委員（会長）、柴田錦見委員（副会長）、佐藤喜好委員、田嶋義晋委員、加藤恒文委員、坂崎雄介委員、堀尾憲慈委員、今枝寛彦委員、小口英二委員、西尾英子委員
欠席委員	佐々木千裕委員、安部正一委員
事務局	富田総務部長、福田総務課長、古田課長代理、石田主査、内山主査、渡邊主任
傍聴人	8名
報道機関	6社

会議結果 要旨

1. 所掌が広いので、幅広い視点で議論する必要がある。
2. 建物・場所については、地に足の着いた落ち着いた議論が必要である。
3. まちの将来像についてイメージを共有していきたい。
4. 秋頃を目途に中間報告をまとめたい。

会議録 要旨

1 委嘱状の交付

2 市長挨拶

市長 現本庁舎は耐震性が低く、老朽化が著しいことが課題となっている。過去に発生した大震災の経験から、災害時における庁舎の重要性は広く認識されてきたものと思う。庁舎は防災拠点となる建物であるということを念頭におき、委員の皆さんには、まずは新庁舎の必要性から、ゼロベースで議論をしていただきたい。その次に、建物をどこに建てるべきかという場所の選定について、その後、段階を経ながら、建物のあるべき機能についても検討を進めていただきたい。

これから先、40年～50年の市の針路を決める重要な役割をお願いすることになる。議論にあたっては、客観的な数値に基づいた、科学的な結論を導いて頂くようお願いしたい。

3 委員紹介

4 委員長・副委員長の選任

委員長に小林甲一委員、副委員長に柴田錦見委員を選出

5 事務局資料説明

事務局 （資料1に沿ってこれまでの経緯について説明）

委員 一般市民の正しい理解を得るためにも、この委員会で、市民の方に対してより一層わかりやすく説明しながら進める必要がある。

事務局 パブコメ、広報の特集記事等で周知に努めてきたが、まだ努力の余地がある。来年度は特集記事以外にも1年を通じて広報で連載を行う、また、地区懇談会のメインテーマにして、各校区で説明する。

事務局 (資料2に沿って本庁舎の老朽化の現状について説明)

事務局 (資料3に沿って今後のスケジュールについて説明)

6 質疑応答 なし

委員長 これから委員間での自由討議を行いたい。

委員 冒頭に市長が委員会の課題として、防災拠点となる建物であること、場所の決定、機能のあるべき姿について話をされたが、一体として議論をしないと、市民は小出しにされてもわからない。将来の業務のあり方を先に決めないと建物は決まらない。段階を追ってではなく、一体として進めるのがよいのではないか。

委員長 この委員会には建て替えの必要性、新庁舎建設からまちづくりまで求められている。立ち位置が難しい。市民の方にわかりやすくなるように、問題を整理して、秋を目処に委員会としての中間報告をしたいと考えている。

委員 コロナによって生活が変わり、中心地ばかりではなく、リモートにより地方にもチャンスが来る時代かもしれない。これからの10年、20年先を考え、多治見市の将来像がまとまらなるとどの場所がよいかも決まらない。多治見市の将来の大事な根幹をここで決めていかないと先に進めない。

委員長 ネットワーク型コンパクトシティは理念としては正しいと思うが、具体的にイメージしにくい。新庁舎に求められる機能とマッチするかどうか、掘り下げて、委員が期待と不安な部分を共有できるように議論ができればよい。

委員 本庁舎建替は、市にとっても市民にとっても50年振りの大事業なので、建替えだけに終わるのではなく、業務改革の機会にしてほしい。業務の統廃合、合理化、アウトソーシングなどを取り入れ、業務コストの削減を目指してほしい。建替えが、市民のためになること、サービス向上になることを強くアピールすれば、建替えに対する市民の受け取り方も違ってくるのではないか。

委員長 駅北庁舎の雰囲気、様子を見ると、器(建物)が変わると人が変わると感じる。新しい庁舎の構想に何を込めていくのかこの委員会で共有できるとよい。

委員 市民目線から言うと、今後の市民と接する窓口業務について、例えばマイナンバーカードを使うとできる業務は多いので、普及させれば、仕事の内容、種類が変わり、混雑が緩和され、e-Tax、コンビニ交付といったサービスもできるようになる。そういうことも検討して構想に入れていかないと建物が決まらない。また、駐車場の問題、川南から駅北までは川を渡り、線路を越えなければならないという問題も検討課題として考えていかなければいけない。

委員 たまに建て替えした新しい庁舎に何うと、環境が変わると職員のモチベーションが変わり、仕事の中身も変わってくると感じる。建物の使い方、どういう機能を持たせるかを決めて、中身を決めて、建物を作るのが最近のやり方である。機能を考える中で、コロナの影響は大きい。コロナ流行以前、駅北立体駐車場は417台がほぼ満車であったが、現在は100台入るかどうかくらいに状況が変わっている。今ある建物も使われ方が変わってきている状況を踏まえて検討していく必要がある。

委員 新しい庁舎の土岐市では窓口部門には境目がなく、横の繋がりを大事にして多岐に渡

る相談に対応している。職員はいろいろな課の経験、知識を学び成長できる。他の自治体の新庁舎での新しい取り組みを参考にするとよい。今回、建て替えの必要性から議論を始めると聞き、自分は駅北庁舎が出来てから隣に本庁舎を建てるものと考えていたので、驚いている。駅北庁舎が出来てから議会はどんな議論をしてきたのだろうか。コンパクトシティについては、人口が少なくなっていくので、いろいろなものを中心に持っていき、コンパクトにまとめていくことは必要であると思う。将来どういうまちをつかっていくのかをこれからPRしていくとよい。

委員長 私理解では、駅北庁舎をつくる時に、合併特例債がらみの問題もあり、本庁舎の場所の問題は棚上げにして今日に至っている。ここでやるべきことは、自然なかたちで庁舎、場所が具体的に見えてくる議論ができればよいと考える。

最後に私の方から皆さんに4つのお願いがある。1番目として、委員会の所掌事務は数多く求められているので、幅広い視点でしっかり議論する必要があることを意識して頂きたい。2番目に、委員会の重要なミッションである建物、場所については地に足が着いた、落ち着いた議論をして頂きたい。3番目に、多治見市のまちに対する将来像を明確にイメージしながら、どういうまちをつくり、どういう構想をしていくか、委員の中である程度共有できるようにしていきたい。そうすれば、自然に議論がまとまっていく。4番目は、市長の話、事務局から出されているスケジュールを踏まえながら、ある程度の時期、できれば秋、遅くとも年内に中間報告が必要である。どういう理念を持って、中身に何を詰めるか、そのために委員会として何をすべきか、どういう働きかけが必要か、これまで進んできた中でどういう修正が必要なのか等がある程度示せるような中間報告をしたい。それに向けた議論を2回目以降にしていきたい。必要性の議論も重要であるので、慎重に議論をしながら、そこから求められるものに繋げていければよい。

7 次回以降の日程

事務局 次回は3月19日（金）午後1時30分から本庁舎5階全員協議会室で開催する。以降の日程については、委員長と事務局で調整のうえ、各委員へお知らせする。会議録は調製が出来次第、郵送により各委員へ確認を取らせて頂く。

8 本庁舎内視察

<会議終了>